

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Spring 2025

Vol.49

特集

来て、見て、みんなでワクワク体験
人形劇のまち飯田2025年度イベントカレンダー

Chiyoko

来て、見て、みんなでワクワク体験

人形劇のまち飯田 2025年度イベントカレンダー

人形劇公演、人形劇講座、人形美術館情報、季刊誌の発行など、2025年度も人形劇のまち飯田ではさまざまなプログラムが計画されています。特に飯田市川本喜八郎人形美術館では、川本喜八郎の生誕100年を記念して毎月、展示や催しが行われます。予定に入れてご参加ください。

4月

●黒田人形浄瑠璃奉納公演
4月5日(土)・6日(日)
下黒田諏訪神社春季例祭「無料」
外題／三番叟、鎌倉三代記三浦別れの段ほか

●人形劇定期公演
4月13日(日) 13時30分開演 飯田人形劇場
出演／伊豆木人形クラブ、くまっや一座、飯田短期大学子ども文化研究会ワトル

●川本人形美術館 特別展
「川本喜八郎が影響を受けた人形アニメーション作家」
4月26日(土)～8月31日(日)
川本人形美術館3Fスタジオ

日本の人形アニメーションの創始者である持永只仁、チヲを代表する人形アニメーション監督ジイトルファの作品を展示

●季刊情報誌『Dogushi』春号発行
4月上旬

5月

●人形劇講座初級コース
世界の民話を題材に作品を製作して成果発表
期間／5月中旬～10月13日(祝月)

●人形劇定期公演
5月11日(日) 10時30分開演 飯田人形劇場
出演／ばべとごころ、人形劇団かざし山、人形劇団なむなむ

●人形劇の相談所
6月3日(火)・10日(火)・17日(火)

人形劇製作に取り組む方のための相談所「無料」

10月

●人形劇短期講座
10月下旬・11月下旬 飯田文化会館
張り子でお面をつくらう(全2回)

●季刊情報誌『Dogushi』秋号発行
10月下旬

11月

●人形劇in丘のまちフェスティバル
11月3日(祝月) 川本人形美術館
『三国志』諸葛孔明の帽子(縮巾)をつくって、かぶって、まちへ出よう

12月

●森のぼかばかクリスマス
12月7日(日) かざし子どもの森公園
人形劇公演 クリスマスリース・ピザづくりなどが楽しめるファミリー向け企画
出演／コンダ人形劇

●人形劇定期公演
12月14日(日) 10時30分開演 飯田人形劇場

●ましゅ&Keiのクリスマス会
12月20日(土)・21日(日) 飯田人形劇場
ましゅ&Keiがゲストとともに繰り広げるスペシャル企画

●初春を寿ぐ竹田人形館
1月10日(土) 竹田人形館
出演／ヒトカタ座

●人形劇定期公演
1月25日(日) 10時30分開演 飯田人形劇場

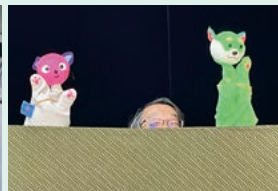
●川本人形美術館 第32回常設展示



©持永只仁アニメーション研究会



10月	9月	8月	7月
●森のかみしばい劇場 7月5日(土) かざこし子どもの森公園 飯田下伊那の紙芝居グループによるジョイント公演 ●季刊情報誌『Dogushi』表紙原画展 7月上旬～8月下旬 川本人形美術館2F交流ゾーン ●いいだ人形劇フェスタ「プレフェスタ」 7月18日(金)・19日(土) 飯田市内各所 ●川本人形美術館「ごども写生大会」 7月30日(水) 川本人形美術館「無料」 9月に入賞作品表彰式、参加作品すべてを美術館内に展示 ●季刊情報誌『Dogushi』夏号発行 7月下旬 ●川本人形美術館 デジタル写生大会 8月2日(土) 川本人形美術館「無料」 ●いいだ人形劇フェスタ2025 8月7日(木)～10日(日) 飯田市内全域 ●人形劇定期公演 9月14日(日) 10時30分開演 飯田人形劇場 ●川本人形美術館 特別展 「項羽と劉邦展」 9月～11月(予定) 川本人形美術館3Fスタジオ 川本喜八郎が実現を夢見てつくり続けていた人形とその資料を展示 ●ダンボールしまいワークショッップ 9月28日(日)・10月13日(祝月)・19日(日) 川本人形美術館エントランス前 獅子を舞う男 後藤渉さんを講師にダンボールで獅子頭をつくり、舞を練習して発表 ●今田人形奉納公演 10月11日(土)・12日(日) 今田人形の館「無料」 ●人形劇定期公演 10月13日(祝月) 10時30分開演 飯田人形劇場			



川本喜八郎生誕100年記念イベント

川本喜八郎が人形制作のために収集した古布を使つての小物づくり、特別展にあわせた企画など毎回参加したくなる催しが目白押し!

※参加費が必要なものがあります

4/12(土) 古布で匂い袋づくり

4/26(土) 特別展トークイベント

5/3(祝) 人形アニメーション 川本喜八郎作品上映

5/4(祝) 人形アニメーション 持永只仁作品上映

5/5(祝) こま撮りアニメーション体験

5/6(振休) 古布でくすみボタンづくり

6/22(日) 「カフェ・ド・トルンカ」1日限定復活

7/12(土) 古布でしおりづくり

8/23(土) 長編人形アニメーション『死者の書』特別上映

10/5(日) 古布でブローチづくり

12/28(日) つきたて餅の振る舞い

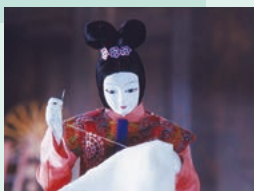


パネル展「川本喜八郎の軌跡」開催中

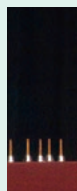
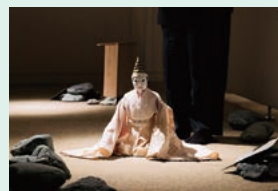
9/2(火)まで 3Fホワイエ

10/30(木)～12/21(日) 2F交流ゾーン

※9/4(木)～10/28(火)は展示していません



©桜映画社／川本プロダクション



3月	2月
●人形劇定期公演 3月15日(日) 10時30分開演 飯田人形劇場	●いいだ人形劇まつり「りんごこ劇場」 2月中旬 市民劇団が企画・運営する人形劇まつり ●保育士人形劇研修会 2月中旬 飯田市公立保育園の保育士による上演

最新情報はお電話にてお問合せいただくか、いいだ人形劇センターのウェブサイト・Facebook・Instagram、

03 または飯田市川本喜八郎人形美術館のウェブサイト・Xをご覧ください。

[無料]と表記のあるもの以外は参加費・入館料等が必要です

人形たちとつくる ほっこり コミュニティスポット

人形劇と音楽のひととき「ミニライブ」



いい大人形劇センターは2020年から、困難を抱えた子どもや若者が人形劇を通して考えていることを表現し、伝えるきっかけをつくれる居場所づくりを始めました。古民家を活用した家庭的な雰囲気のある建物で『ほっこり』と名付け、いろいろな人形を自由に動かして遊ぶことができるスペースもノックリや集まった人同士で話ができるスペースなどがあり、子どもや若者だけでなく、地域の方々にも利用いただいています。

『ほっこり』では人形劇の上演と生演奏とを合わせた「ミニライブ」、人形づくりの「ワ



「(一社)ソーシャルデザインプロジェクト丘のりんご」を利用する子どもたちとのアートプロジェクト展



アウトリーチ活動で獅子舞を披露

ークシヨップ」、国内専門劇団の舞台作品を映像で鑑賞する「ほっこりシアター」を計画し、二年を通して居場所『ほっこり』を知っていただく取り組みもすすめてきました。

また、『ほっこり』の活動を多くの方に知っていただくため、いい大人形劇センターが持つノウハウを使ってアウトリーチ活動も行いました。なかでも地域のフリースクールや子どもたちの居場所を運営する団体とタッグを組み、テーマを決めてイラスト・写真・造形物などの作品をつくらせて展示するアートプロジェクトでは、子どもや若者たちが自己肯定感を高めることができたのでは

ないかと感じています。

こうした協働活動とあわせて人形劇を定期的に鑑賞する機会をつくり、子どもたちの心の変化や気づきを調査して各団体と次の歩につなげる活動にも力を注いでいきます。

2025年度から居場所『ほっこり』の活動は休止し、アウトリーチ活動を中心に展開します。飯田下伊那の各団体とともに子どもや若者に寄り添い、人形劇から生まれる可能性を見つけていきたいと思います。

人形づくりワークショップ「モンスターパペット」



写真を持ち寄って動画を製作する映像ワークショップ

飯田フェスタに思うこと

茶間屋ショーゴ ショーゴ



三重大学の「人形劇団つくし」で出会った飯田フェス、最近はずっと上演参加しています。有料公演も何度かしましたが、やっぱり飯田は地区公演が楽しいなあ！公演後の交流会が芝居以上に？魅力ですね。

人形劇が、各地区の公民館単位でこんな風に取り上げられる、楽しんでもらえる、それも子どもたちはもちろん、オジサンオバサンまで巻き込んで！というのはホボホボ奇跡です。芸能が身近なんでしょうね。受け入れられる年齢層の広さや手法の自由さ、楽しさの広がり人形劇の魅力だ

第38回
すべての道は
飯田へ通ず

と思います。学生サークルは何で減っていくんだろう…飯田のような祭りがもつとあちこちで広がればいいのになあ。

そして飯田で楽しみなこと、それは何といても海外の劇団に出会えることです。個人的にも学生の時、名古屋の小劇場で初めて観たゴード・カナダの小さな舞台が目からウロコの衝撃でした。

今まで飯田で出会えたチエコやカナダ、韓国のスバラシイ舞台が大きな財産です。

「すべての道は飯田に通ず！」今年も期待しています。

次号は愛知県の
「人形芝居ぶんどく」幾田美恵子さんです



いい大人形劇フェスタではいつも地区公演の皆さんに歓迎していただいて、うれしい気持ちで帰路についています
(2023年時又ふれあいセンターにて)

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から④9

季刊銀花第82号「人形の棲む谷 早稲田の人形行事」

季刊銀花は、1970年～2010年の間に161号・文化服装学院出版の発行で、日本の暮らしの美意識を主題とし、時には有名作家の版画や肉筆の絵などが挟み込まれたりもした人気の高い雑誌。この号「早稲田の人形行事」は、神送り、上演などを中心に写真も取込んで取材、構成した6頁のルポルタージュで、人形座の座員として人形たちと暮らす保存会の人たちのそのおほかで素朴な側面を描いている。こうした雑誌が取り上げることで人形芝居は注目されその範囲も広がり、早稲田だけでなく伊那谷の人形芝居全体へと波及していった、そんな時代があったのだ。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



文・水谷みゆき 写真・山口幸一
(1990)

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota

ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルルヴィ
イル・メジェールから飯田へ。飯田文化会館で
通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田
での生活の中で見たこと、感じたこと、人と
の出会いなどを綴ります。



霜月祭りへ 行きましょう!

こんにちは皆さん!

今日の話は昨年の12月に行ったことです。
12月15日、初めて飯田市遠山郷の霜月祭りへ
行きました。

霜月祭りは遠山郷にある10の神社で行わ
れます。今回は八重河内・尾野島正八幡社の
霜月祭りを見に行きました。

個人的にお祭りに興味があります。今まで
色々なお祭りへ行ったけど、こういうのは初め
てでした。本当にビックリして面白かったです。

見たことがない伝統ですので、一回でも見ら
れて良かったです。伝統の説明も聞けて嬉しい
です。神の面をつけて、踊るところは精巧で感
動しました。特におばあちゃんとおじいちゃん
の舞は見たことのない動きをしていたのでとて
も驚きました。神送りの時に釜の上に飾られた

「湯の上飾り」を刀で切ったところもビックリし
ました。

こんな伝統が今まで続いて素晴らしいです。
若手もお年寄りも参加してこの文化を共有す
るのは大事だと思いました。

刀で切られた湯の上飾りの紙を家へ持って
帰って、玄関に貼りました。ご利益を多く感じら
れました。



八重河内・尾野島正八幡社の霜月祭り



廊下にディス
プレーされた
子どもたちの絵



メネンケンシアター

ドイツ・アペン市はニーダーザクセン州、
北海に近い場所に位置している。「ブレ
ーメン」から列車で2時間ほど。「アウグスト
フェーン駅」は、タクシーもない小さな
駅。閑静な住宅街を歩いて20分ほど。「ど
んがり帽子の赤い屋根」が目印だ。筆者が
訪ねた7年前は創立25周年で記念フェス
ティバルが開催されていた。入り口を入る
と廊下沿いに近隣の子どもらが書いた可

「メネンケンシアター」

ドイツ・アペン市

日本ウニマ国際委員会 おなぎ たみこ



参加者募集

2025年度 人形劇講座

人形美術、操演、演出などプロの指導が受けられます。会場は飯田文化会館・飯田人形劇場です

※参加費には基本の材料費が含まれますが、製作内容により別途材料費等を徴収する場合もございます

初級コース **申込締切 5月7日(水)**

世界の民話を題材に、人形づくりから上演までを体験

期 間 1回目5月14日(水) オリエンテーション

2回目以降は参加者の都合にあわせて計画

成果発表は10月13日(祝・月)を予定

対 象 人形劇が初めての方、人形劇の経験が少ない方

参加費 月1,000円



サポートコース **随時募集中**

新作づくり、既存作品のブラッシュアップを支援

期 間 参加劇団の希望で実施

回数・時間帯は劇団の都合、製作内容により
変わります

対 象 飯田市で創作活動が可能なグループまたは個人、数組

参加費 一人1回500円、

新作づくり

一人1回1,000円



ユースクラブ **随時募集中**

中学生から大学生のための人形劇クラブ。中学校の人形劇部出身の新高校生、大歓迎!

期 間 通年(週1回程度)

対 象 中学生、高校生、
大学生

参加費 月500円



短期講座

人形製作や人形劇の技術を習得するためのさまざまな講座を行います。10・11月に張り子の製作を予定

これまでの講座 ハンドパペット各種・マリオネットの
製作、伝えるため話し方など

※詳細はいいだ人形劇センターのウェブサイトでお知らせします
お問合せ・申込み

NPO法人いいだ人形劇センター ☎050-3583-3594

※写真は2024年度に実施した講座の様子です

客席



ティールーム 25周年記念フェスのポスター



愛い「タイル絵」が飾られている。子どもたちはさぞかし何回も観劇に来たくなることだろう。劇場主自らが観客を迎え、チケットをもぎりながら挨拶を交わす。
年間100回の公演に加えて、幼稚園のグループ、親と子のための定期公演もある。廊下の奥が劇場になっていて、客席は70席。人形劇にはうってつけの小さな空間。終演後はティールームで歓談、ゆったりと時が流れた。
メネンケン・シアターのレパトリーは「愚かで賢いキツネ」、「ロバの耳をもつ王子」、「ピーターとオオカミ」など。

其の五

日本列島 人形劇祭の旅



現在は「雑司が丘の上テラス」を会場に開催しています

池袋いけいけ人形劇まつり

1988年、国際人形劇連盟（UNIMA）の世界大会がはじめて日本で開催され、同時に「世界人形劇フェスティバル'88東京」という大きなイベントがもたれました。「池袋いけいけ人形劇まつり」は、そのプレ・フェスティバルとして、その年の7月3日、誕生しました。

終了後、1回だけで終わらせるにはもったいないと、東京・池袋周辺の人形劇を愛する団体や個人が集まり、「いけいけネットワーク（池袋地域人形劇連絡協議会）」が結成されました。



第1回から29回までの会場「としま区民センター」



マスコットの「いけろうくん」

以来、としま未来文化財団とともに、としま区民センターを会場に、家族そろって楽しめる人形劇のおまつりとして「池袋いけいけ人形劇まつり」を開催してきました。

としま区民センターでは、受付にて入場券に代わる手作りのふくろうバッジを購入すると、6階建ての施設内を自由に観覧することができ、ホール・会議室・和室など大小様々な会場にて、人形劇をはじめ、パネルシアター・腹話術・紙芝居・演劇・ダンス等の演目を観劇することができました。第30回の開催では主会場であったとしま区民センターの改修があり、豊島区内の南大塚地域文化創造館にての開催へと会場の変更がありました。

その後、コロナ禍でのオンライン開催を経て、現在は雑司が丘の上テラスを会場に、池袋近隣の文化的アットフェスティバルである「池袋モンパルナス回遊美術館」の一環として、開催されています。

DATA

池袋いけいけ人形劇まつり

第1回は1988年開催。今年は第38回、2025年5月17日(土)・18日(日)開催

主催：池袋いけいけ人形劇まつり実行委員会

開催場所：としま区民センター→南大塚地域文化創造館→雑司が丘の上テラス(現在)

問合せ：事務局 高橋 ☎090-1462-1426

並木 さんぽ

いい大人形劇センタープロデュースの最新作が3月に初演を迎えました。ゼロカーボンについて知り、理解を深めるきっかけづくりの作品で、題して『こわ〜い未来美術展』。私たちが住む飯田、信州の未来に関する作品が提示されている小さな美術展が舞台です。小中学校や地域の環境学習会などに活用ください。

次号は2025年7月発行予定です。(帆)

掲示板 いい大人形劇センターからのお知らせ

人形劇の活動を支援してください 賛助会員募集!

NPO法人いい大人形劇センターは、当センターの目的と活動にご理解・ご賛同いただき、活動を支援してくださる2025年度の賛助会員を募っています。賛助会員(個人・団体)にお申し込みいただきますと特典として、季刊情報誌『Dogushi』や公演・イベントなどのお知らせを随時お届けいたします。

皆さまのご支援をお願いいたします。

年会費 賛助会員 1口2,000円 ※正会員も募集しています5,000円
(企画提案、総会での議決権あり)

問合せ：いい大人形劇センター ☎050-3583-3594